

週刊 女川湾海況速報 (No.23)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

12 月 17 日から 21 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

観測点



小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週と比較して、水温は下降傾向。経時的には 18 日に上昇。塩分は先週と比較して上昇傾向。経時的には、水温と同様に 18 日に上昇。その後、33.5 パーミル以上を維持。港外水の影響と推定。

水深 [m]	12月17日 (月)	12月18日 (火)	12月19日 (水)	12月20日 (木)	12月21日 (金)
0	11.7 (33.4)	12.3 (33.5)	12.0 (33.5)	11.4 (33.1)	11.6 (33.4)
6	11.8 (33.4)	12.2 (33.6)	12.0 (33.6)	11.5 (33.5)	11.6 (33.6)

水温の単位は℃。カッコ内の塩分の単位はパーミル（千分率）。1 パーミル = 1PSU（実用塩分単位）。

*20 日は水深 5m のデータを使用。

②濁度：先週と比較して、上昇傾向。経時的には 20～21 日に表層（0m）で、17～19 日に底層（6m）でそれぞれ 1.0FTU 以上の高い値。

水深 [m]	12月17日 (月)	12月18日 (火)	12月19日 (水)	12月20日 (木)	12月21日 (金)
0	0.7	0.7	0.6	1.0	1.0
6	1.4	1.2	1.0	0.8	0.7

（単位は FTU）

③溶存酸素：先週と比較して、上昇傾向。8～9mg/l 台を維持。経時的にも全層で上昇傾向。

水深 [m]	12月17日 (月)	12月18日 (火)	12月19日 (水)	12月20日 (木)	12月21日 (金)
0	8.2	8.4	8.3	8.6	8.7
6	8.1	8.2	8.3	8.4	9.0

単位は mg/l。水産用水基準（水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値）：4.3mg/l 以上。

St.1 の結果

水温、塩分はともに水深とともに上昇傾向。5m 以深は港外水の影響と推定。濁度は 0.8～0.9FTU、鉛直的にはほぼ一定。溶存酸素は 8.2～8.4mg/l、鉛直的に水深とともに下降。

12 月 19 日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分 [パーミル]	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	11.9	33.4	0.9	8.4
5	11.9	33.6	0.9	8.3
10	12.0	33.6	0.8	8.2
15	12.0	33.6	0.8	8.2
20	12.0	33.6	0.9	8.2

本データの利用については、
東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp

までお問い合わせください。